

震災の経験と教訓から、共に学び共に考える 「防災学習研修施設」として

おぢや震災ミュージアム「そなえ館」

施設長 日 岡 求

1 はじめに

平成16年（2004）10月23日17:56に発生した新潟県中越地震は地震計で初めて最大震度7を計測した内陸活断層型の地震だった。

その特徴は、発災後短時間のうちに何度も強い地震が発生したこと、中山間地で発生したためがけ崩れが多発し、鉄道・道路の分断が激しく21地区もの孤立箇所があったこと、ほぼ全ての家屋が被害を受けた（小千谷市の99.96%）こと、長期間にわたりライフラインがストップしたことなどがあげられる。また、発災時期や地域の特性から車中避難者が最も多く、そのため、全国的にもクローズアップされたエコノミークラス症候群や災害関連死が課題として浮かび上がってきたことなどである。しかし、火災の発生は1件と少なかった。それは、平成7年（1995）に発生した阪神淡路大震災の教訓が生かされ、ガス関係設備が改善・



【そなえ館】外観

普及していたことがあげられる。

災害の状況を把握・分析し、今後に生かす・つなぐことの重要性を踏まえ、その役割の一端を担っていきたいと考えている。

2 そなえ館の紹介と果たす役割

おぢや震災ミュージアム「そなえ館」は、中越メモリアル回廊の施設として平成23年（2011）にオープンした。その後、施設運営が小千谷市に任されたことに伴い、市と連携した運営を行っている。

新潟県中越地震の被災状況と復興の様子、経験と教訓を蓄積・伝承し、地域を担う防災人材の育成支援や次世代へ継承していくための「そなえ」を共に学び共に考える「防災学習研修施設」としての役割を果たしている。

そのために、地震動を体験できる施設設備を最大限に生かしながら、様々なニーズに対応できるプログラム（地域・組織の防災力強化対応、学校関係の防災学習対応）を提供している。

また、自主防災会組織が開催するイベントでの出前講座や小中高等学校の防災学習や避難訓練時の出前授業にも対応している。

その他、新たな伝承事例や資料の開発・デジタル化、各種イベント事業を実施している。

3 多様な防災力強化プログラム

当館では、基本的なプログラム（館内案内・地震動体験）をベースにしながら、語り部講話・グループワーク・防災工作・オリジナルコース等の多様な防災力強化プログラムを実施している。

また、学校関係では新潟県が策定している防災教育プログラムに基づき、校種・学年・各校の防災教育の学習内容や要望を事前に相談した上で、各学校に応じたプログラムを提供している。

【防災体験プログラム紹介】

■ Aコース 語り部講話コース

地震動体験並びに館内案内と発災時に要職を担っていた地元語り部（自主防災会長、民生委員・児童委員、市役所職員、消防関係、学校関係等）による講話。



【充実した講師陣】



【消防団関係語り部コース】

■ Bコース 防災グループワーク体験コース

地震動体験並びに館内案内と防災をテーマにしたグループワーク。



【自主防災会グループワーク】



【中学校グループワーク】

■ Cコース オリジナルコース

・地震動体験並びに館内案内と来館団体の要望に応じた内容・プログラムを構成。

■ 防災工作体験コース

身近なものを使用した災害時に役立つ新聞紙スリッパ、ポリ袋防寒具・雨具、風呂敷ヘルメット・リュックなどの防災グッズづくり。



【雨具づくり（中学校）】

■ 出前講座・出前授業

学校や公民館等に赴き、そなえ館職員による講話・防災クイズ・防災工作などの講座を実施。

内容は事前に相談の上、ニーズに沿ったプログラムを編成。



[中学校出前授業：救急体験]

4 明日にそなえて未来へつなぐ館内施設

当館の特性は、実際の地震波をもとに再現した揺れの体験ができる2つのシステムを備えているところにある。一つは4Dシアターにおける3D映像と前後上下の揺れ体験である。もう一方は、地震動シミュレーターによる映像と横揺れ体験である。大地震が発生していない地域や若い世代が体験することで、いつ発生するかわからない地震に備えてほしいと願っている。

この2種類の地震動体験システムをベースに、館内展示は6つのゾーンで構成している。

① 発災ゾーン

4Dシアターによる地震動体験と被害状況の写真を展示している。揺れの怖さを体験しておくことは、今後の震災への備えとして大切なことである。実際、当時の体験談からは吹き飛ばされるほどの強い揺れの怖さとともに、気が動転して何もできなかったという証言が多数みられる。



[地震動体験システム：MX4D]

② 避難ゾーン

震災後にとった被災者アンケートによる避難先ベスト3（1位：車中避難、2位：地域ごとの避難、3位：指定避難所）を写真とコメント、立体模型による展示で構成している。



[避難先ベスト3 写真並びに立体展示]

③ 復旧復興ゾーン

応急仮設住宅での不自由な暮らしと台所の様子、19年ぶりの豪雪とその対応を展示している。

④ おちやのそなえゾーン

震災の経験を生かして災害へのそなえはどのように進化したのか？震災前後の変容を比較し、パネルで展示している。

⑤ 復興の軌跡ゾーン

発災から現在に至るまでの出来事を、写真と年表で振り返ることができるように展示している。

⑥ 防災学習体験ゾーン

横揺れ体験ができる地震動シミュレーターの他、災害時に役立つ身近なものを使った防災グッズ作り、風呂敷を使ったヘルメット作りや応急処置のやり方、昭和39年に発生した新潟地震で明らかに



[地震の揺れをリアルに体験]

なり、中越地震でも大きな被害が発生した液状化現象の簡易実験、非常持ち出し袋や段ボールベッドなどを展示し、自由に体験できるように展示している。

5 各種事業・イベントの開催

この他にも、定期的にイベント等を開催し、多くの来館を促しながら、震災を中心とした災害への意識向上、日々のそなえの実践化を促進している。

【各種事業・イベント紹介】

■ 防災ジャングル

小学生向けの防災イベント。館内で5つのミッションをクリアすることで、楽しみながら防災の知識を学び、防災への意識を高めていく。

■ 防災キャンドル作り

災害が発生したとき役に立つキャンドルを楽しみながら作る講座を開催している。

そして、作成したキャンドルの一つは、震災を振り返り防災意識を高めるために取り組むべきことを考えるきっかけの日として毎年開催している10.23「中越大震災の日」追悼のつどいにおいて、復興の灯りをイメージしたキャンドルイルミネーションで点火している。



[キャンドル作りと追悼のつどい]

■ 防災リーダー研修

震災を経験していない世代から震災の恐ろしさや教訓を学んでもらい、災害時にリーダー的存在として活躍してもらうことを目的に、中学生を対象に大震災が起こった地域で現地研修を行っている。



[令和4年度 阪神淡路大震災現地研修]

■ 防災キャンプ

いつ起こるかわからない災害に対して、地震の模擬体験やゲーム形式で防災を学び、食事は全て非常食とし非日常を体験しながら、防災意識を高めてもらう「体験型防災キャンプ」を開催している。



[ゲーム形式で防災学習]

6 おわりに

中越地震から19年が経過し、当館がオープンして12年目を迎えている。被災地のほとんどはほぼ復興が進んだが、日常の生活場面で震災を想起することが少なくなっている。また、震災を覚えていない、経験していない若い世代が成人を迎えるくらいの年月の経過は、いくつかの課題を投げかけている。

中心となって震災対応にあたった当事者の高齢化、震災の記憶は鮮明だが、日常場面における防災意識は・・・、多感な時代（小中高校生）に震災を体験した世代が働き盛りで多忙であり、次世代へつなげる場面が取りにくいなど。

これらの課題を少しでも打破できるように、被

災状況と復興の様子、経験と教訓を蓄積・伝承し、地域を担う防災人材の育成支援や、次世代へ継承していくための「そなえ」を共に学び共に考える「防災学習研修施設」としての役割を果たしていきたいと考えている。

そのために、コロナ禍で制限されてきた町内会や自主防災会等の研修やイベントには、積極的に支援していきたい。また、学校関係の防災教育へ

の支援は次世代への継承という重要な役割がある。

児童・生徒が防災について学び、その学びが家庭内で話題となることで、当時の体験や教訓が引き継がれたり、家庭全体で防災意識を醸成していったりしてほしいとの願いがある。

次年度は震災20年という年を迎えるが、多くの関連機関や他施設との連携を再構築して、その役割を果たしていきたい。